【7】日本の町並み保存…都市部の難しさ

1 今井町と妻籠宿

これまで5回かけて、具体的な白壁地区の建物の保存を見てきました。これらの政策を進めていくうえで気にしていたのは、町並みの保存が、都市づくりの中でどのような意味を持つか。そして今後どう進めていけばよいか、という点です。

そこで今回から数回かけて、町並み保存政策について考えてみたいと思います。まずはじめは、そもそもの成り立ちです。そこには、全国でいくつかの流れがありました。

まず動きがあったのは、①奈良の今井町です。昭和30年、東京大学が建物調査に入りました。当然、保存を意識してのことです。次は、②鎌倉でした。高度成長で、古都らしさが失われていきました。40年代になると、③今度は過疎化が進みつつあった木曽の妻籠で宿場町の保存が問題になったのです。

このような動きのなかで、全国の町並み保存への動きが徐々に活発になっていったのです。今回は、その象徴的ともいえる「今井町」と「妻籠」の事例から、町並み保存の原点をみてみたいと思います。

2 制度の確立と課題

(1)妻籠宿と重伝建制度

町並みの調査が始まったのは今井町が先になりますが、実際に町並み保存が動き出したのは、木曽の妻籠でした。

妻籠は中山道の宿場町ですが、明治の末、中央線ルートから外れました。伊那谷にも鉄道が走ると、妻籠の街道は人が通らなくなり、戦後は過疎化が進んでいました。

そのような中で、昭和40年頃、観光のための開発の可能性が模索されたのです。しかし学識者の意見は、安直な観光地化ではなく、宿場を文化財とみて開発を進めるべきだという方向が示されたのです。

この議論は、学識者を通して、国の文化財行政をも動かすことになりました。そして50年には、まず、国に「伝統的建造物群」に対する保存制度ができました。これは、これまでの文化財が「点」であったのに対し、対象を、建造物群という「面」に拡大するものでし

都府県	地区名	種別	選定基準	面積(ha)
秋田	仙北市　角館	武家町	2	6.9
長野	**南木曽町　妻籠宿**	**宿場町**	**3**	**1246.4**
岐阜	白川町　萩町	山村集落	3	45.6
京都	京都市　産寧坂	門前町	3	8.2
京都	京都市　祇園新橋	茶屋町	1	1.4
山口	萩市　堀内地区	武家町	2	55.0
山口	萩市　平安古地区	武家町	2	4.0

＊選定基準：1：全体が意匠的に優秀
2：群と地割が旧態を保持
3：群および環境が地域的特色で顕著

図1　第一期で重伝建地区に指定された地域（7地域）

た。そして翌51年には、妻籠が、他の、角館(秋田)、産寧坂(京都)等と並んで重要伝統的建造物群(以下、重伝建)地区の第1号に指定されたのです(図1)。

(2)今井町というところ

先にも述べたように、町並みの保存で、最初に注目されたのは奈良の今井町でした。

今井町は、中世からの環濠集落が、戦国時代、興福寺や織田信長への防御のために武装都市化した寺内町です。江戸時代になると今井兵部の支配になり、次に天領化しました。しかし、町(ちょう)は、警察権、裁判権、さらには貨幣発行権まで与えられた自治都市だったのです。人口は、最盛期は4,000人、1,200戸ほど。商業が多く、また金融業を起して、「大和の金の7分」は今井町に集まるとさえ言われました。その後やや衰えましたが、明治になってもつづき、古い家並みは戦後まで残っていたのです(図2)。

それが戦後の家屋の調査で偶然発見され、昭和30年、東京大学が調査に入りました。32年には、今西家が重要文化財に指定されています。その後、奈良文化財研究所等により詳細な調査が行われましたが、具体的な保存の動きは、40年代半ばでした。

まず46年に、地元に、小規模でしたが、「今井町保存会」が発足しました。47年には、旧米谷家、豊田家など、6軒が、一度に重要文化財に指定されたのです。国の今井町に対する保存の意気込みを感じます。ところが、この時はまだ「面」に対する保存制度はありませんでした。そしてこの後、地域を指定する伝

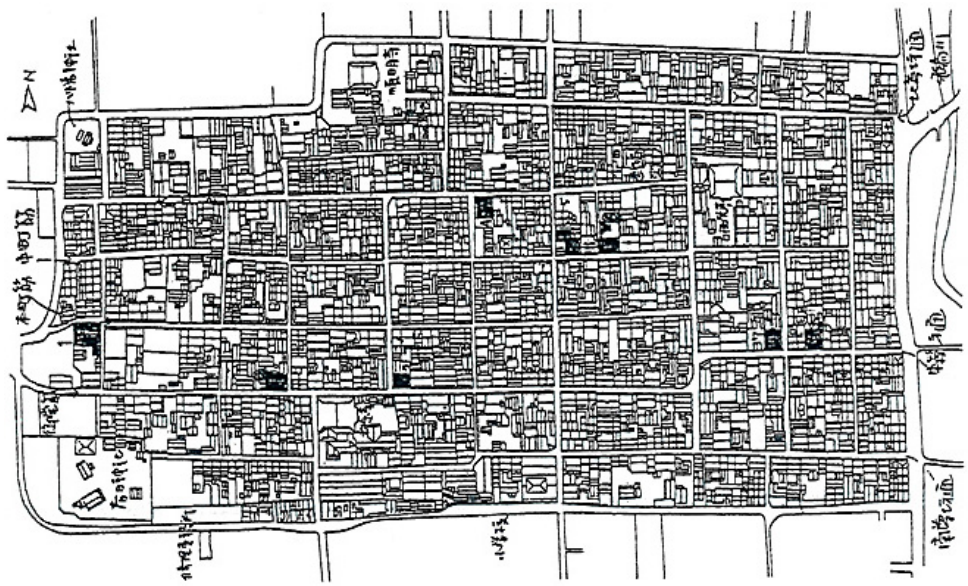

図2　今井町のまち。南北が約310㍍。東西が約600㍍

統的建造物群保存地区の制度ができたのです。しかし、その最初の指定地に、今井町の名はありませんでした。

(3)今井町の20年

今井町が外れたのは、「住民の合意」が取れなかったからです。今井町は、760世帯、1,800人が住み、大阪、京都等への通勤圏です。しかも自治都市としての歴史を持ちます。外部の流れにすぐ乗ることはありませんでした。

今井町研究会、今井町文化会、町並み保存連盟、今井塾など多くの運動体ができ、賛成派、慎重派が入り乱れて、様々な議論が展開されました。53年には国の家屋調査に対して、住民協議会も設立されています。しかし、重伝建の制度は、保存すべき家屋だけではなく、一般家屋をも、しかも将来にわたって制約するものです。合意には至りませんでした。

そして平成２年には、「町並み保存を再考する会」が発足したのです。しかも翌年には、環濠内の過半の世帯からの署名を市に提出しました。今井町の町並保存の町民合意は、完全に振り出しに戻ってしまいました。

理由とされたのは、整理すると、①不動産価値の低下、②将来の生活の拘束、③借家の建替え時の不経済、④条例の説明不足、等でした。とくに③が問題だったといいます。

ところが転機がありました。今井町には、元々街の真ん中に東西・南北の都市計画道路が入っていました。道路も狭く、開発しようにも大改造しないことには開発ができないのです。それを救う道が、都市計画の例外扱いになる重伝建指定でした。指定には制約もありましたが、見方を変えれば、歴史を活かしたまちづくりの政策でもあったのです。

指定を先取りして、既存の町並みを活かした下水や道路舗装、電線の地中化等の工事が進みました。そうすると、次第に住民は合意の方向に傾いていったのです。

結局、今井町の重伝建の指定は、平成５年でした。地元で運動が起こってから、20年という年月が経っていました。

3 紀行 今井町

… 江戸時代が残る環濠・寺内町 …

それでは、奈良の今井町を訪ねてみましょう。近鉄の大和八木駅の一つ南、八木西口駅を下車します。

〈環濠の街〉

駅を出て左に進み、JRのガードをくぐると、右は飛鳥川です。正面には畝傍山がみえます。川を渡ると正面は今井町になります。

まず左に歩き、町の交流センターの「夢甍」

情報センターの「夢甍」。
今井町時代は役場だった

復元された南口門。
堀と土塁と門がある

３重になっている堀の復元。
奥はルーツとなった春日神社

西口門の前にある重文の今西家。
重厚な造りが注目された

に向かい、町の情報を入手します。この建物は昔の今井町役場です。その東側には堀が復元されています。はじめに環濠から町を見てみましょう。堀の方向、西に進みます。３本目は南口門の跡が復元されています。もう１本進むと、こんどは曲がり角に堀が復元されています。２重、３重になっているのが分かります。ここが環濠の西南角で、中にある春日神社が今井町のルーツだった所です。

神社に参拝し、北に抜けて次の道を左にいくと、堀に戻ります。右に、公園化した堀を進むと西口門跡に出ます。右に大きな今西家の屋根が見えます。今西家は、町の惣年寄のトップを務めていました。昭和32年、最初に重要文化財に指定された家屋で、公開されています。

〈密集の町〉

さて、ここから町の中に入ります。今西家の前の本町筋を、まず東に進みます。道幅は３㍍程。小型車がやっとの道です。２本目を右に曲がると次の角は重文の豊田家です。元は木材商でした。

今井町の建物の特徴は、①切妻、②平入り、③本瓦葺き、です。古いものは背の低い「つし２階」で、「むしこ窓」を開けています（図３）。

豊田家の前の道は御堂筋で、東にすぐ寺内町の中心、御堂の称念寺があります（改修中）。寺の斜め前は重文の中橋家です。米屋だったとされます。次の道を左に、細い路地を行くと突き当り、手前右に重文の上田家があります。惣年寄の一人で司法担当だったといいます。

南に１本戻り、左に中町筋に入ります。この通り、とくに左側は、重文の

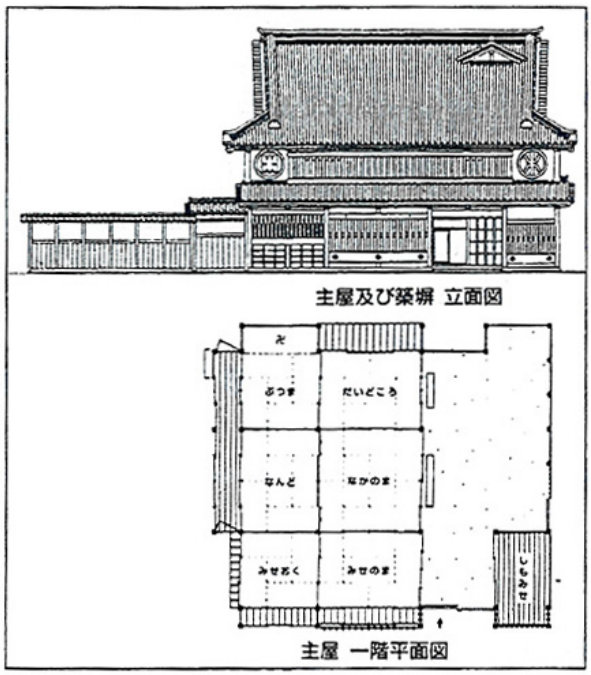

図３　今井町の建物の例。重文の豊田家

寺内町の中心になる称念寺。
特徴ある塔が目立つ

中町筋の今井町を代表する町並み
（振り返って撮影）

南北方向の路地。
この方向には電柱が残っていた

重文の河合家。
酒造で、現在も使用されている

音村家、旧米谷家を含んだ旧い家が並び、壮観です。音村家、米谷家ともに金物商でした。

突き当りから先は、２期目にできた街で、区画が変わります。右に曲がりすぐ左に行くと、１本目角には後で重文になった現役の酒造業の河合家です。その次の角は重文の高木家で、ここも酒造と醤油業でした。左に曲がり突き当りを右に曲がると、往きに通った飛鳥川の蘇武橋に戻ります。

4 保存とまちづくり

妻籠に比べると、今井町は重伝建の指定までに長い時間がかかりました。重伝建地区は、一般の建物にも規制がかかり、それが将来にも適用されるため、建替えを考える人などは躊躇せざるを得ないのです。

しかし、考えてみれば、重伝建はまちづくりでもあります。歴史を活かし、環境を整え、家の前面を歴史に調和した形にするのです。今井町は、重伝建に指定されたからこそ、下水や道路改良が可能になりました。重伝建を通して、町をきれいにし、生活をよくする方法もあるのです。

町並み保存というと何か後ろ向きのイメージがあります。しかし、「歴史を活かしたまちづくり」だと、前向きにとらえると解決の方向が見えそうに思えました。

〈主な参考文献〉

①八甫谷邦明編著『今井町　甦る自治都市』
（2006、今井町町並み保存会）